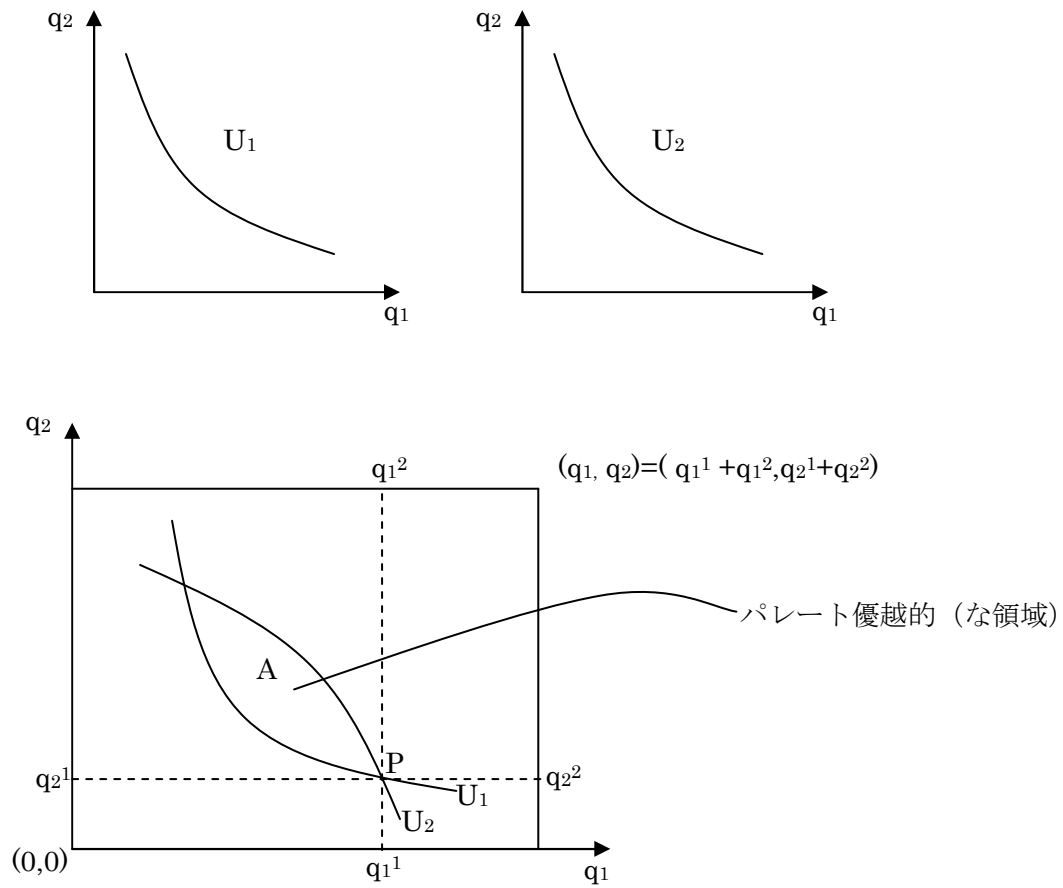


パレート効率性

ある q_1 、 q_2 の組合せを二人の消費者でどのように配分するかを考える
(単純交換経済モデル)



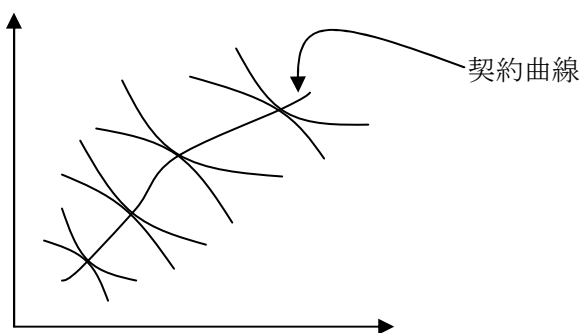
P 点では A 点に比べてまだ改善の余地がある

=パレート効率的でない

2 人の無差別曲線が接する点をパレート効率的な点という

パレート効率性に関する整理

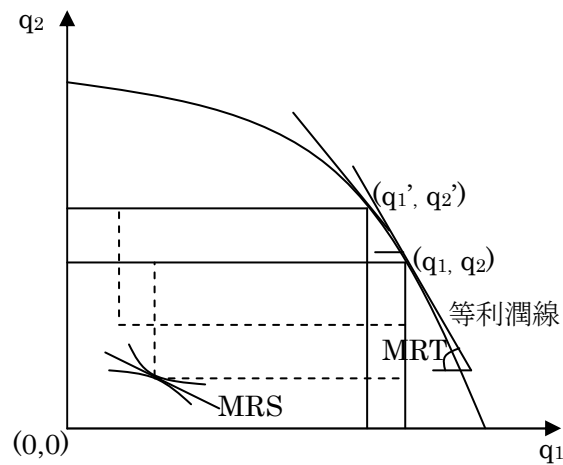
- (1) 初期保有量 P はたいていパレート効率的でない
資源配分の量を変更することでより高い効用を得ることができる
- (2) パレート効率性はエッジワースボックスの中で実現される
- (3) パレート効率的な点は無数に存在する
- (4) 市場メカニズムとパレート効率性の関係
完全競争市場での価格の需給調整機能を通じて
パレート効率的な点は常に達成可能である
→完全競争市場での均衡はパレート効率的である
→厚生経済学の第一の命題
- (5) パレート効率性と分配の公正性、平等性は異なる判断である
社会的に望ましい効率的かつ公正な資源配分は
政府の所得再分配政策により実現可能である
→厚生経済学の第二の命題



契約曲線上のどの点を選択されるかは

- ・ 初期保有量
 - ・ 2人の購買力
- などにより左右される

生産の配分と消費の配分を考える



今、 $MRT > MRS$ だとする

(q_1, q_2) の組合せを左上に動かすとどうなるか

→経済主体2の原点が移動（経済主体1の原点はそのまま）

ここで、主体2に配分される財の組合せを一定とする

=主体2の効用は一定に保たれるとする

この時、主体1に配分される財の組み合わせは (q_1, q_2) の移動と同じだけ移動

$MRT > MRS$ なので、新たに移動した点はもとの点より右上の無差別曲線が通る

→主体1の効用が増大

→パレート改善できる